

【鷹栖町の年表】

明治2年(1869年)北海道の誕生 蝦夷地を改め、11国86郡を設けました

明治18年(1885年)上川原野を調査 初代北海道長官・岩村通俊らが上川原野を国見し、翌年近文山に国見の碑を建立
※トレッキングで歩く嵐山付近

明治25年(1892年)鷹栖村誕生
※石狩川右岸の旭川近文地区・東鷹栖・江丹別の他、愛別町・比布町・上川町を含む広大な流域でした

明治26年(1893年)山崎千松 水稻の試作に成功

明治34年(1901年)北野獅子舞奉納

大正8年(1919年)オサラッペ川の氾濫を防ぐために鷹栖土功組合を設立



オサラッペまちづくり研究会 "鷹栖"開拓と米作りの歴史をめぐる旅



日程 9月28日(木)

テーマ: 鷹栖(北海道)の開拓の歴史を農業・文化の面から体感しよう!!

ツアー日程

14:00 ノーマライゼーションセンター

① チェックイン・ミーティング・休憩時間

自己紹介 & 参加者交流

② 14:30 町民ガイド側さんによる鷹栖町レクチャー

鷹栖町の始まりである開拓の歴史をお話していただきます！

③ 15:00 中山家庭園

▶ 治水の碑・鷹栖土功組合を設立するなど開拓を進めた偉大な村政の功労者中山照重さんに思いを寄せ、秋の鷹栖町オサラッペ川河川敷を散策♪

④ 16:00 郷土資料館

元農家でもあり、ご自身も馬耕をされていた経験を持つ、町民ガイドの山内さんから当時使っていた農機具などの説明、エピソードをお聞きし、当時の生活を想像してみましょう！

⑤ 17:00 鷹栖神社

今は旭川市である、嵐山や春光台も昔は鷹栖町でした。その旧鷹栖村の広がりをご鷹栖神社から実感しましょう。

18:00 伝承館



・明治25年2月4日= 北海道庁令第5号をもって設置
*石狩川上流域の神居古潭以東北の右岸一帯800 平方kmという広大な区域でした。

・明治30年に愛別を分村

・明治35年に字近文の一部を旭川町に編入

・明治39年に比布を分村

*大正13年に愛別村から上川を分村

・大正13年に三村分村(東鷹栖・江丹別・鷹栖)

・昭和44年に町制施行・現在に至ります。

Point 4

鷹栖神社

分村前、鷹栖町はとても大きい町だった！

鷹栖神社は、明治28年6月15日の旧鷹栖村戸長役場開庁にあたり(旭川市末広東1条12丁目)設立され、明治31年には現在の場所に建立されました。

旧鷹栖村地域を中心に氏神さまとして地域の人々の心のよりどころになっています。



Point 1

水田発祥の地

日本の主食であり、鷹栖町の産業として育つはじまりの一粒のはなし。

開拓者たちは麦、蕎麦、薯、稻黍、豆類などを主食として生活をしのいでいたが、誰もが米を食べたいという願いを持っていました。

明治26年鷹栖村に入植した山崎千松は札幌白石村の駒井覚助から早生の種 粳五升を譲り受け、沢水を利用して二畝ほどの水田に植え、秋にはどうにか種粳を収穫することが出来たという。これが鷹栖村における最初の稲作でした。



Point 2

北野獅子舞(鷹栖町指定文化財第1号)

豊作祈願と遠い富山県を想う、現代に続くエンターテイメント。

富山県に伝わるものが伝承されました。雄雌2頭の獅子があり、北海道に移住した川辺源三郎が雄獅子を譲りうけたものとされています。獅子舞の構成は、獅子頭に1人、胴体に5人が入り、獅子とりの少年は1人で棒、なぎなた、草刈がまが持ち物で、笛や太鼓の囃子に合わせての踊りは勇壮です。

豊作祈願を願うお祭りは遠い富山県を想う現代に続くエンターテイメントです。



Point 3

治水の碑(鷹栖町指定文化財第2号)

まさに、まちづくりは自分事。開拓時代の人の力強さ。

開拓の初期に於いては道路も完全でなく、舟で石狩川をのぼり、十三線九号付近に上陸したと言われています。しかし、屈曲した乱流は、降雨、融雪期にはしばしば氾濫し、流域の田畑を侵し、人畜財資に大きな被害を与えていました。

大正8年、オサラッペ川沿岸住民が中心となって鷹栖土功組合が設立され、民間団体による河川改修が起工されました。

6年3カ月にわたる難工事のすえに河川の改修を終え、その記念として建立されたのが「治水の碑」になります。

